



## 第2540地区大会基調講演 「ロータリーの初心」

第2800地区バストガバナー 濱田 五左衛門  
(米沢RC)

ただ今ご紹介頂きました米沢RCの濱田五左衛門と申します。

2000年の記念すべき貴地区大会に、講演の機会を与えて頂き、身に余る光栄と喜んで参上致しました。

私は1980-81年度第253地区ガバナーで、福島山形両県が地区でしたが、現在は分割されて山形県だけの第2800地区であります。

秋田の大会参加は、初めてではありません。

秋田・山形・福島三県が、第353地区だった頃のロータリアンであります。実は私は、1968-69年度高橋与市ガバナーの、地区幹事を仰せ付けておりました。そのころは、地区幹事とは言わずガバナーズ・セクレタリーとっておりました。秋田県の多くの方々からご指導頂きましたので、この会場にも何人か懐かしいお顔を拜見して嬉しく存じます。

2000年を迎え、世界は大きな転換期に当たっています。ロータリーも例外ではありません。

ここ数年、会員数の激減が続いております。1999年6月末日から12月末日までの半年間に、会員が22,557名も減少してしまいました。3年前には1,213,746名で、クラブ数28,736でありました。クラブ数だけは890も拡大されましたが、会員は33,196名も減少しました。しかも、あまり公表されていませんが、RIから会費未納や例会不開催などの理由で、終結させられたRCが、昨年

10月1日現在962にのぼります。消滅したRCを差し引いても、なお拡大しているのは、まさにRIはパブルの様相を呈しております。

不況のせいだと言う人がおります。しかし、1905年ロータリー創立以来、ただ今より深刻な不況は、数限りなくあったにも拘わらず会員が減ることがなく、寧ろ増強してきたのであります。

いま、アメリカは未曾有の好景気に沸いていますが、大きな会員減少が続いており、特に会員数の多い名門クラブで減少が顕著であります。

また、不況に喘ぐアジアの一部で、会員の増加が見られます。不況だけが原因とは申せません。

ロータリーに魅力を失ったのか、或いはロータリー情報が充分提供されなかったのか、友人も作れず淋しく去った新会員も少なくありません。

「人が最もダメージを受けるのは、自分が誰からも必要とされていないと感じた時である。」とカーネギーが言っておりますが、新会員が何の役割も与えられず、一把一絡げで親睦活動委員会に入れられ、宴会係をさせられれば虚しさを感じるのは当然でしょう。

組織が危機に瀕したとき、最善の解決策は創立の初心に立ち返ることです。

さて、ここでロータリーの初心とは何か、と簡単におさらいをしてみましょう。

ベテランのロータリアンには、ご迷惑な話題になりますが、ご辛抱お願いいたします。

1905年シカゴで創立されて、95年間変わらず持続したものの、草創期20年間に哲学として確立したものを数え上げてみましょう。

1番目に、ポール・ハリスが望んだことは、友愛の基礎として商売敵のいない集い、「一業一会員制」の職業分類の厳守であります。職業を代表するという自覚と使命感を持たせた、これが後に綱領第二に繋がり、職業奉仕の概念に発展します。

2番目は、政治と宗教について、論争や、団体行動と意見表明の禁止。クラブ内に派閥を作らせないためであります。世界の各地で民族主義や宗教対立からテロや地域紛争、それが戦争にまで拡大しております。

3番目は、会員は相互にファーストネームか、ニックネームで呼び合う。これだけは日本に定着しなかったが、台湾や韓国では行われております。

4番目は、ハリー・ラグルス提案で、童心に帰り和気藹々の雰囲気をかますため、歌を合唱する。童謡でもフォークソングでも、みんなが知っている歌なら何でもよいのです。アングロ・サクソンの国々とアジアに定着しました。未だに、食事の前に歌など歌えるか、そのような習慣はないとヨーロッパ大陸では、ロータリーソングの無い国さえあります。

私は1935年に制定された「奉仕の理想」を歌うたびに、先輩たちの心中を思い、切なくなります。「御国に捧げん・我等の生業」。なりわいとは、またへりくだったものです。ヴォケーション・天職とは、余りにも掛け離れた観念です。

しかし、私はこの歌が好きです。なにしろ40年以上も歌い続けた私のナツメロです。

莊重にならずに、スイングしながらリズムカルに軽快に歌いたいものです。

私の年次大会では藤山一郎さん（東京西）にソングリーダーをお願いしました。テンポを速く編曲されて、明朗で浮き立つような雰囲気を作ってくださいました。今年3月の第2750地区大会へRI会長代理で参りましたとき、前夜晩餐会でその話しをしたら、ソングリーダーのオペラ歌手木村俊光さん（東京日本橋）が一晩で編曲され、大会は堅苦しさが取れ盛り上がりました。

5番目は、会務に関する互譲の精神。1年で役職を交代する、頼まれれば断らない、裏方に徹して気配りすることなど、クラブ奉仕に育ちました。（E・S・常務幹事、R情報職業分類青少年委）

6番目は、会員の職業上の相互扶助と経営相談への助言。やがて奉仕の観念が生まれ、1908年にアーサー・シェルドンの入会によって、職業奉仕の理論が確立しました。

いま、グローバリズム、市場経済、IT革命など、自由競争が全て、との風潮が漲っておりますが、思い遣りを忘れ文化や品格を失った経営者は、信望を集められるわけがありません。

7番目は、会員が順番に例会で自己の職業管理上の所信を開示する。会員卓話の伝統となりました。

8番目は、例会出席をクラブ活動の基本的な義務とした。4回連続欠席または出席率60%以下で会員資格は自動的に終結する。後に、理事会が正当な事由と認めたとときの出席免除規定を加えました。（クラブ定款第7条第3節推奨細則第9条）

9番目は、会合の時間厳守。これは、時間にルーズだった日本の社会で、ロータリークラブとロータリアンの信望を高めました。

10番目は、会員名簿に写真を添えた。全員揃わなくとも顔が覚えられし、転勤や死亡で退会しても、クラブの歴史の貴重な資料となりました。

11番目は、例会で食事をする。親睦を深め、時間節約に有効とされました。

12番目は、定期的な例会。シカゴは隔週だったが、3番目の1909年創立のオークランドRCが毎週例会でした。頻繁に会うことは親睦に有効だとして、毎週例会のクラブも増えました。1922年6月6日、国際ロータリーと改称して、毎週例会の標準クラブ定款を制定しました。以後加盟するクラブに遵守の誓約を求め、既存クラブには従来の定款の既得権を認めながらも、毎週例会への改正を勧奨してきました。残念ながら、まだ毎週でないのが少数残っております。

余談ですが、同じ既得権としてRIBIにおいて、組織存続とRI会費の半分以下の保有特権も残っております。

こうして数え上げると、シカゴRCが独創した原則と熱い志、すなわち初心が、2000年の今日まで受け継がれております。

そして、13番目は、シェルドンの

〈He Profits Most Who Serves Best〉

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

と、ミネアポリスRCの初代会長フランク・コリンズが提唱した

〈Service Above Self〉

「超我の奉仕」

の二つが1911年に発表され、後に公式標準語となりました。うち「超我の奉仕」が1989年、第1標準語となりました。

14番目は、1915年国際大会で採択された職業奉仕に関する『道徳律』、数々の論議を経て1980年規定審議会でRI細則第16条から削除されました。そして、それにかえて1989年、職業宣言が採択されました。

15番目は、1917年、国際理解と親善増進のための基金が創設され、後のロータリー財団に発展しました。

16番目は、1922年国際ロータリーと改称、標準定款が採択され、それに加えて1923年国際大会で採択された決議23-34によって、「ロータリーは、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務、及びこれに伴う他人のために奉仕したい、という感情との間に常に存在する矛盾を、和らげようとするものである。」という奉仕の哲学と、実践倫理の原則のバックボーンを得て、今日まで発展してまいりました。

しかし、この95年の輝かしい伝統も、長い時間と共に望ましくない慣習や、規定の都合のよい拡大解釈が時々見られるようになりました。

これを正常に変えたいと、フランクJ・デブリンRI会長は、テーマを示されました。

「意識を喚起し—進んで行動を」

危機意識と行動を求められたのであります。

決議23-34の4に、

「奉仕する者は行動しなければならない。ロータリーの哲学も単に主観的なものではなく、それを客観的な行動に表さなければならない。」とあります。

20世紀は、科学技術の急激な進歩、社会や思想のめまぐるしい変転と、度重なる大きな戦争や革命を経験してきました。

私達は新世紀を迎えるに当って、ロータリーの優れた初心を維持し、変化に立ち向かう勇気をもって行動し、更なる発展を目指さなければなりません。「入りて学び、出でて奉仕しよう。」のロータリー例会のモットーにあるとおり、ロータリーは人作りであります。世のため人のために尽くす人を作り、世界的親交を深める。決してお金を集めて慈善をするだけ、であってはなりません。

みなさん、いまこそ初心を意識しましょう。

「意識を喚起し—進んで行動を」であります。